

思春期の実態把握調査 結果報告書

株式会社マクロミル・認定NPO法人カタリバ協働調査

2018年12月20日

本資料および調査結果の著作権・利用権は、株式会社マクロミルおよび認定NPO法人カタリバに帰属します。
両社は本調査結果を対外的に広く公開しており、どなたでも調査結果をご利用いただくことができますが、
本調査結果を使用・掲載される場合には、必ず下記の出典を明記してください。

「株式会社マクロミル・認定NPO法人カタリバ協働調査 2018年思春期の実態把握調査」



目次

■ 調査概要	2
■ 回答者プロフィール	3
■ 調査結果	10
1章 思春期の生活実態	11
2章 思春期の悩み実態	19
3章 思春期の自己肯定感／将来意識	27
Appendix 思春期周りの大人の理想と現実のギャップ	31

調査概要

■ 調査目的 : 思春期世代の実態、および思春期世代を取り巻く環境を調査することにより、思春期世代へ向けた支援のニーズを把握する。また、思春期世代の研究機関としての取り組みの、基礎資料とする。

■ 調査対象 : マクロミルモニタのうち、それぞれ以下の条件を満たす者

【思春期】 15-18歳 中学生・専門学生・大学生以上は除く ※有職者や学校に通っていない人を含む

【元思春期】 18-25歳 高校生・高専生は除く ※有職者含む

【保護者】 35-59歳 15-18歳の子供と同居している（高校生以外の子供も含む）

【教員】 22-59歳 高校・高専の教員 かつ 担任、又は授業を受け持っている

上記の各対象者を性別・居住地によって表①のように割り付け、本調査を行った。

分析する際には、市場実態をより忠実に再現するため、各対象者の性別・居住地構成を市場構成に合わせるように割り戻し集計（ウェイトバック集計）を行った（表②参照）。本レポートでは、このウェイトバック集計後のスコアを元に分析を行う。

※表①：実際の本調査割付サンプル数

	都市		地方		合計
	男性	女性	男性	女性	
思春期	206	206	206	206	824
元思春期	206	206	206	206	824
保護者	206	206	206	206	824
教員	236	73	295	85	689
					<u>3,161</u>

市場構成比に合わせて
ウェイトバック集計



※表②：ウェイトバック集計後 本調査割付サンプル数

	都市		地方		合計
	男性	女性	男性	女性	
思春期	219	215	199	192	824
元思春期	239	229	182	174	824
保護者	217	240	171	195	824
教員	216	99	260	114	689
					<u>3,161</u>

■ 調査地域 : 全国

↳都市（東京、大阪、神奈川、埼玉、愛知、千葉、福岡、兵庫、京都） ※2017年人口密度上位10都道府県（沖縄県を除く）

↳地方（上記以外）

■ 調査方法 : インターネットリサーチ

■ 調査時期 : 【事前調査】2018年7月17日（火）～7月24日（火）

【本調査】2018年7月21日（土）～7月25日（水）

■ 有効回答数 : 【事前調査】56,789サンプル

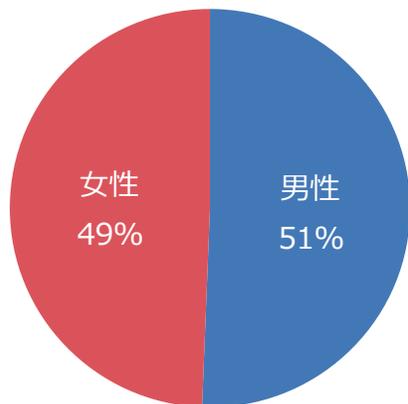
【本調査】3,161サンプル

■ 調査実施機関 : 株式会社マクロミル

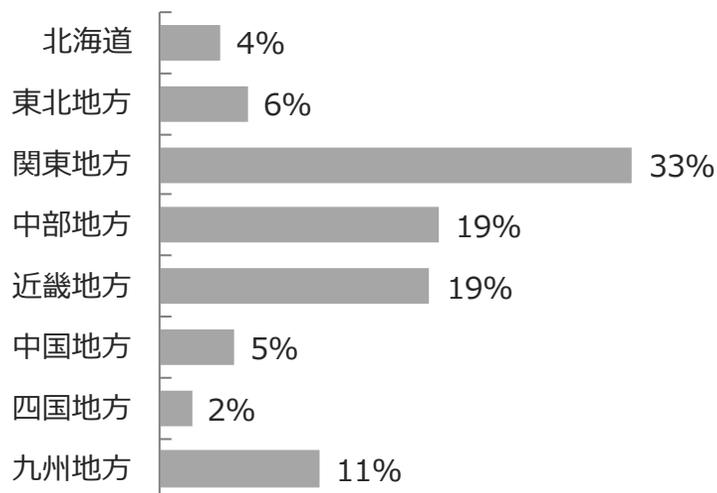


回答者プロフィール

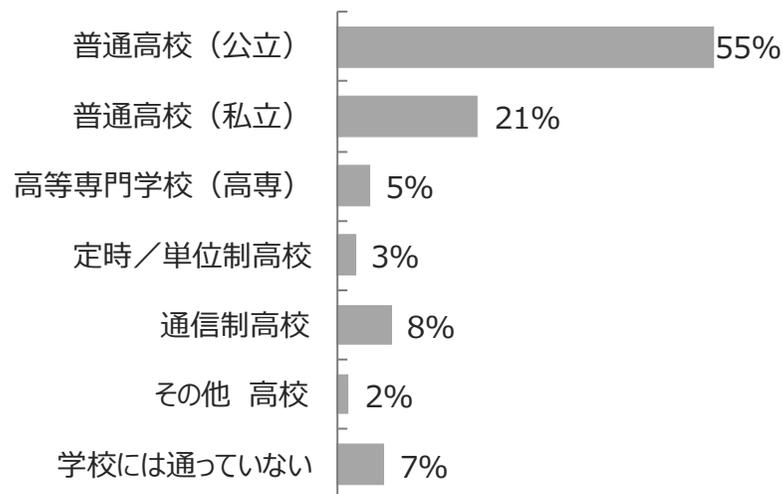
性別



居住エリア



所属_SQ1

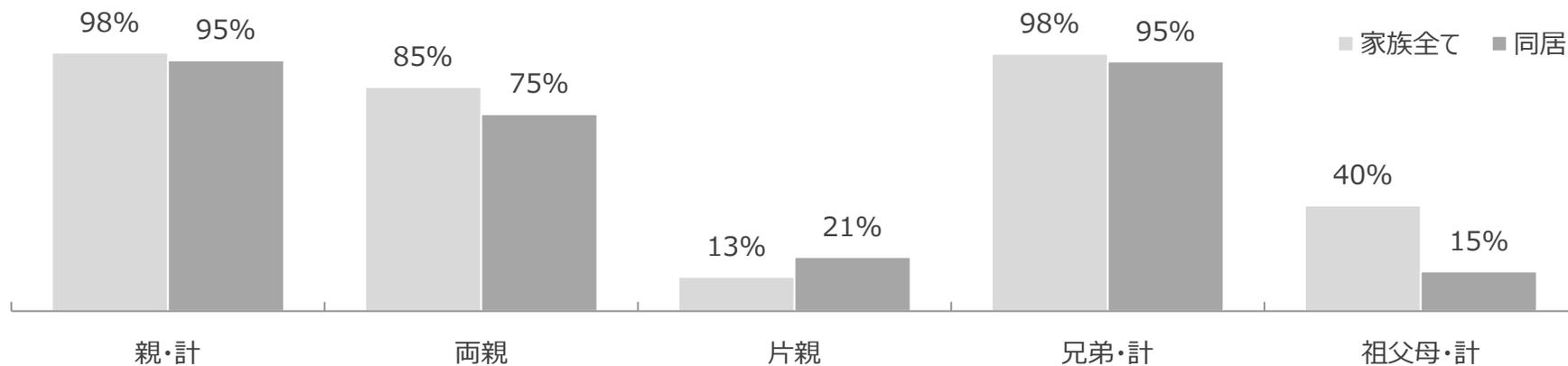


学年_Q1

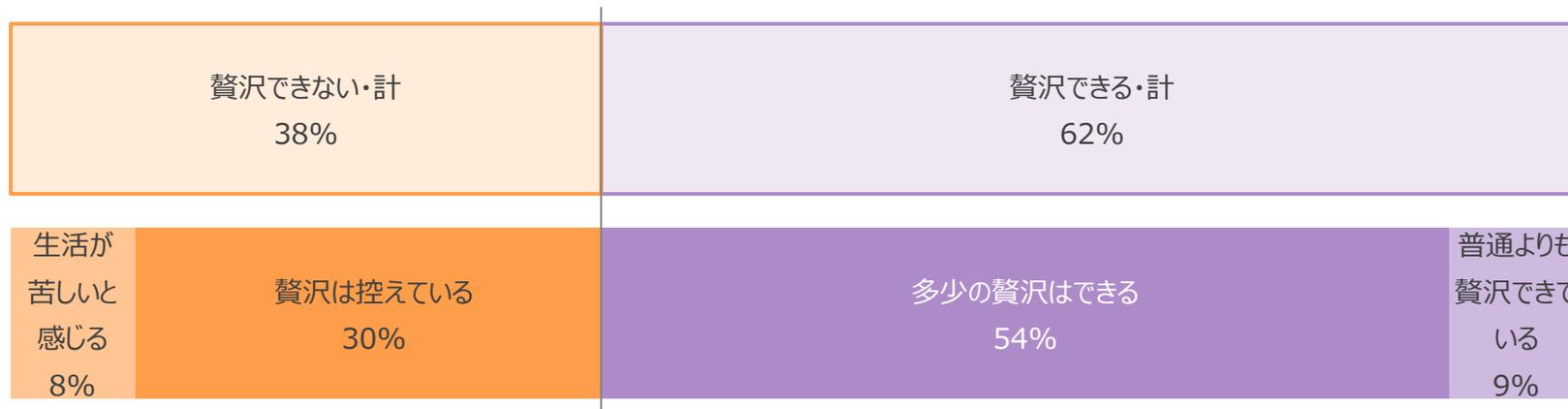
所属で高校生と回答した n=767 が対象



家族構成 SQ2 ※複数回答

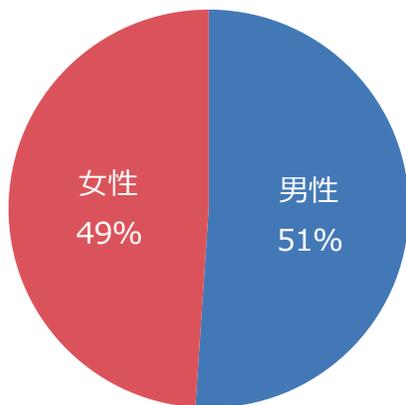


経済状況 Q27

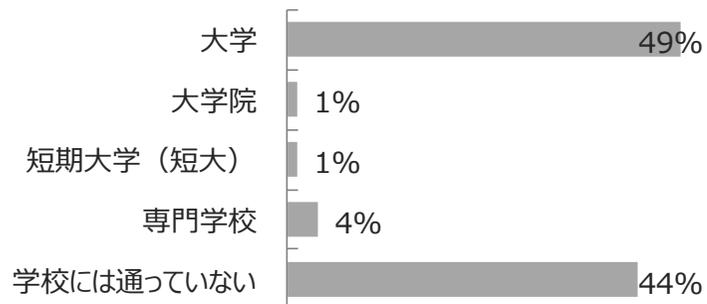


Source | 思春期の実態把握調査, 対象者 | 思春期824ss

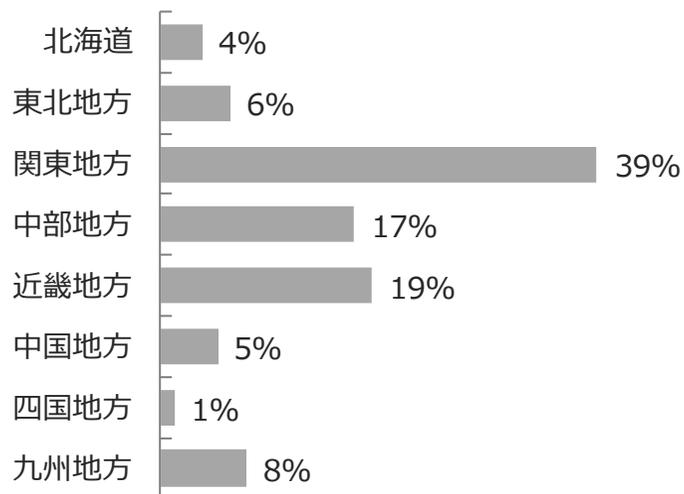
性別



所属_SQ1

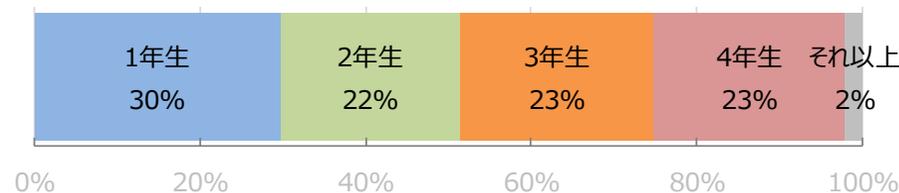


居住エリア

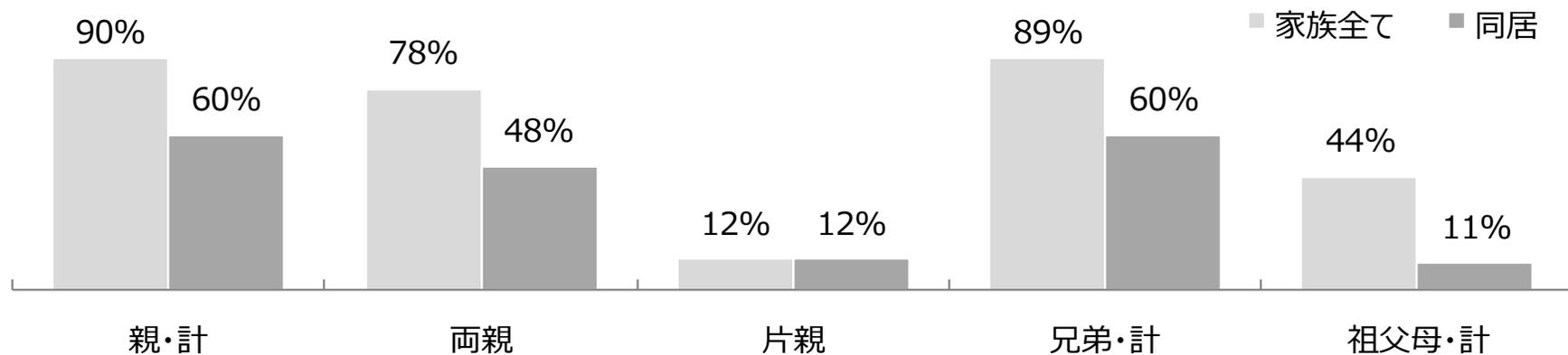


学年_Q1

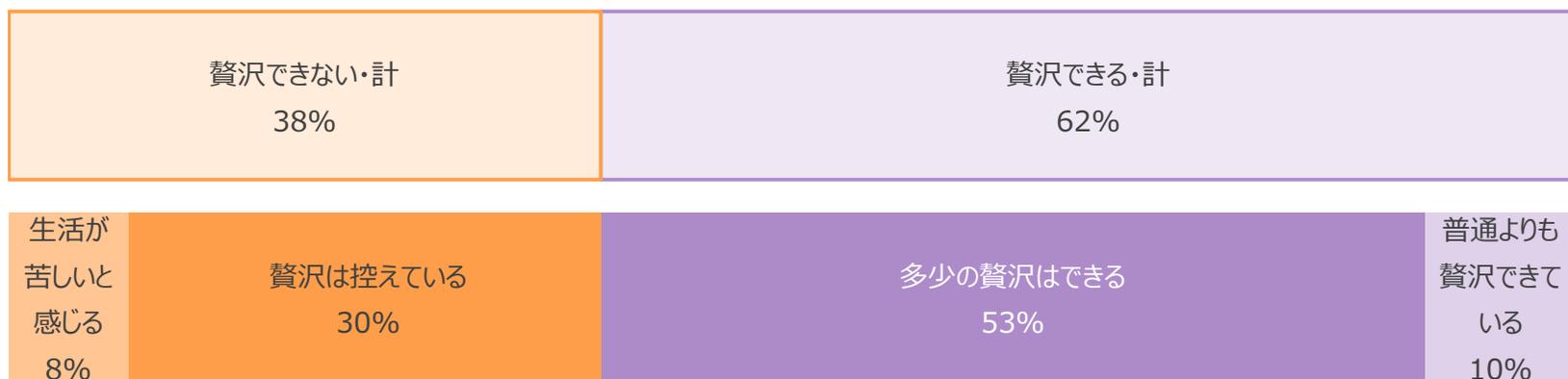
所属で大学生と回答した n=407 が対象



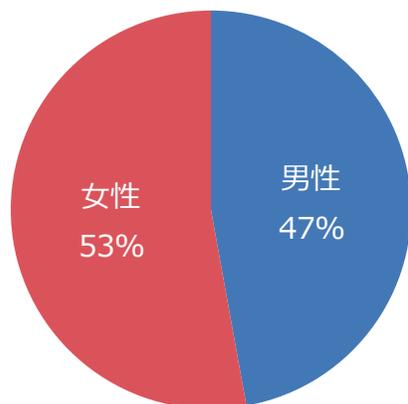
家族構成_SQ2 ※複数回答



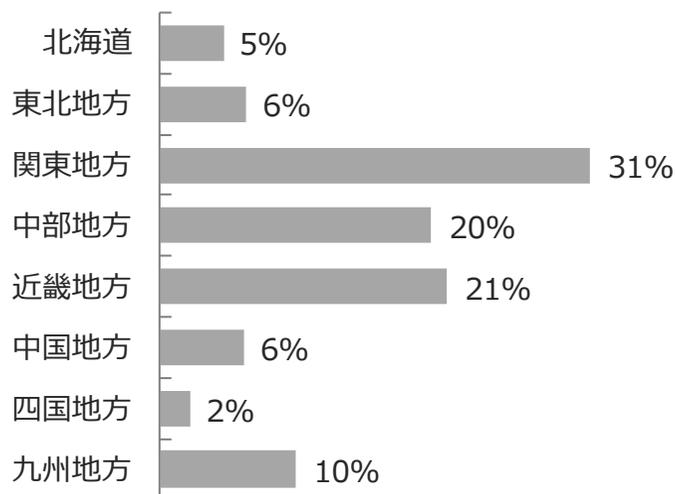
高校時代の経済状況_Q37



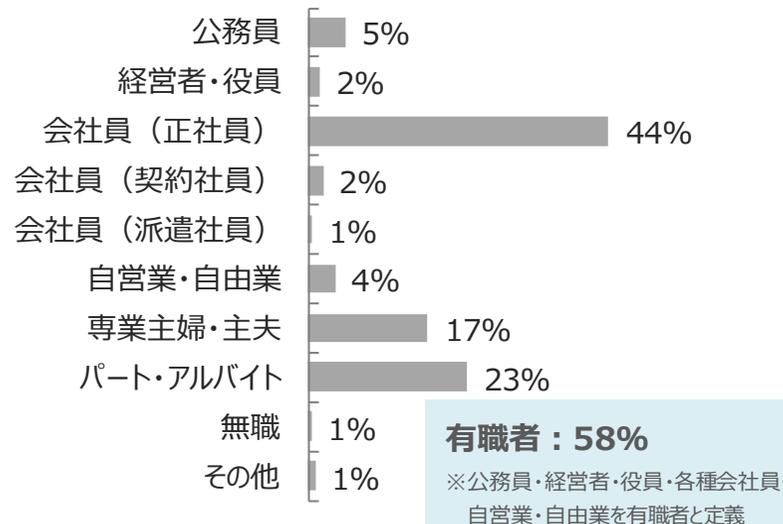
性別



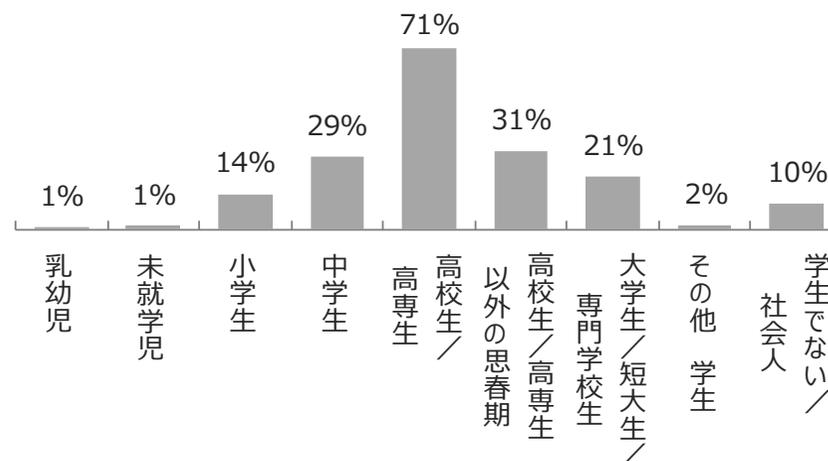
居住エリア



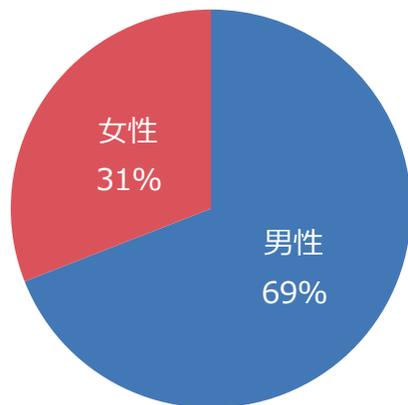
職業_SQ4



同居の子供の学齢（子供・計）_SQ3



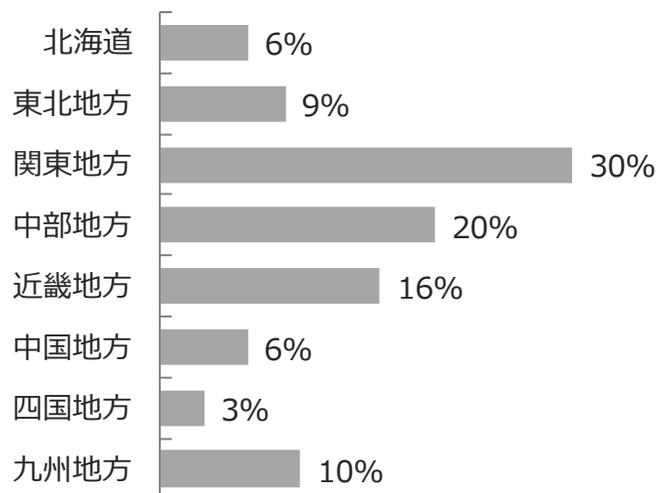
性別



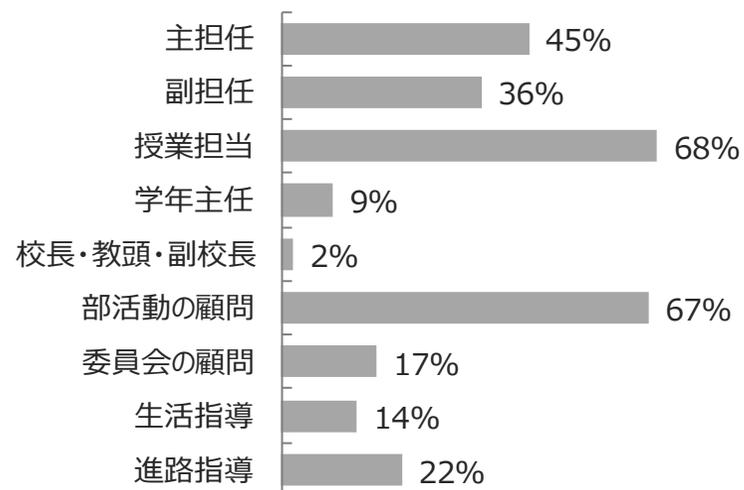
勤務高校種別_SQ6



居住エリア



担当業務_SQ7,Q59





調査結果



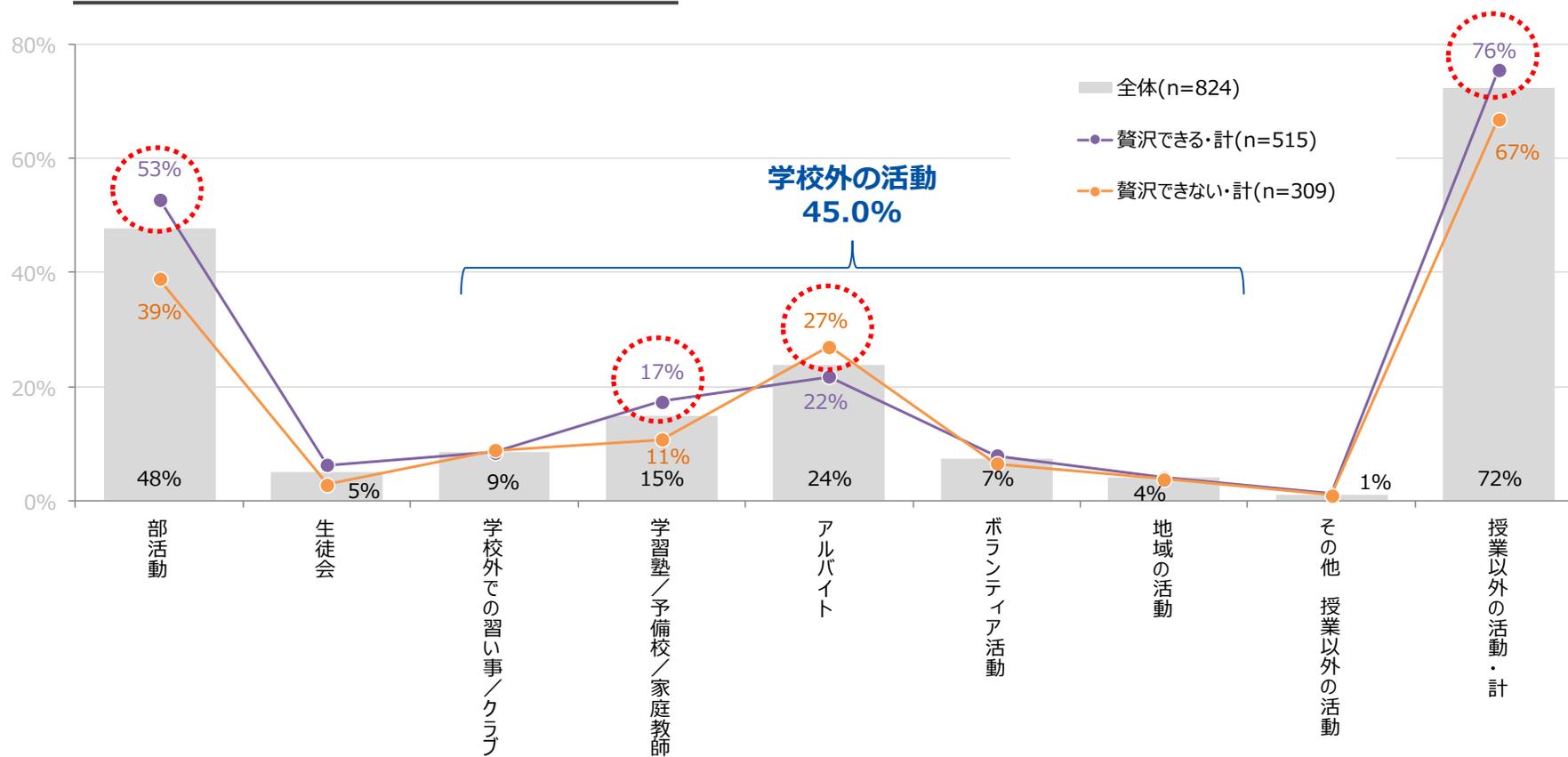
1章 思春期の生活実態

【思春期】授業以外の活動

**7割強が授業以外で活動、4割半が学校外で活動を実施しており、思春期の忙しさがうかがえる。
また、経済環境が厳しいほど授業以外の活動率は低く、経済環境による機会格差がみられる。**

■ 経済状況が「贅沢できる」人は、「部活動」や「学習塾」が高く、「贅沢できない」人は「アルバイト」が高い。授業以外の活動率は「贅沢できる」人の方が高い。

授業以外の活動状況_Q2



Source | 思春期の実態把握調査, 対象者 | 思春期824ss

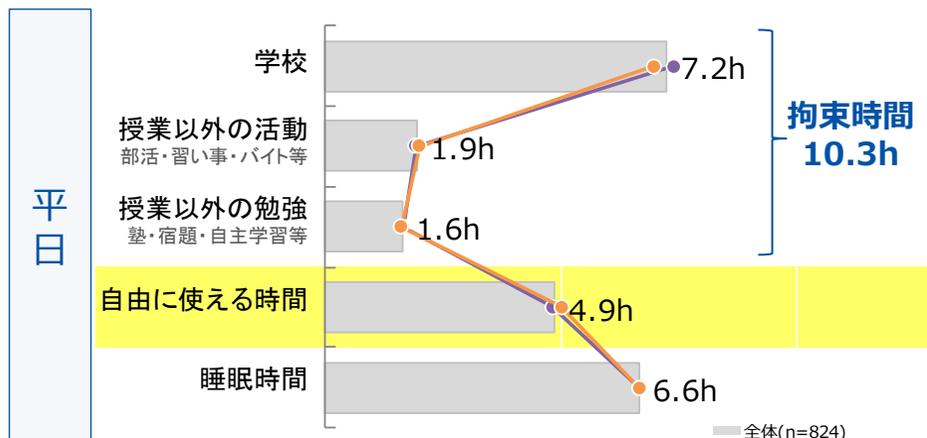
【思春期】時間の使い方

平日の自由にできる時間は、3時間以下が約半数を占める。

■ 家庭の経済環境が裕福な人ほど、授業以外の活動実施率が高いということもあり、平日の自由に使える時間はやや少なくなる傾向がある。

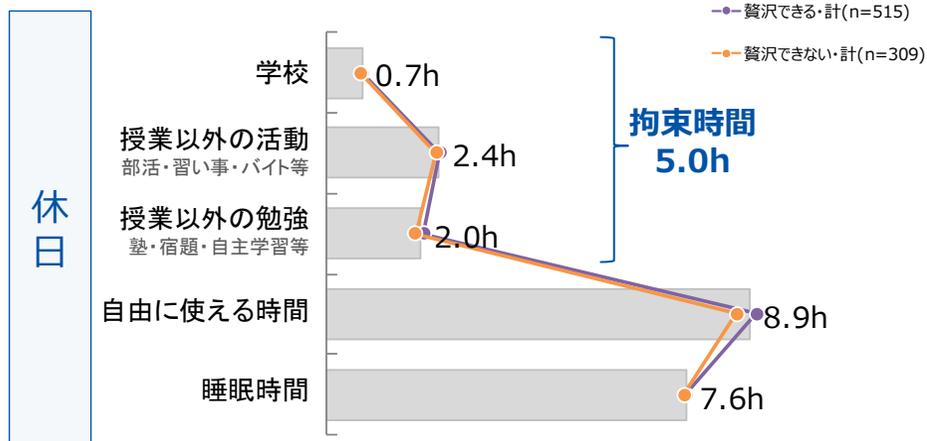
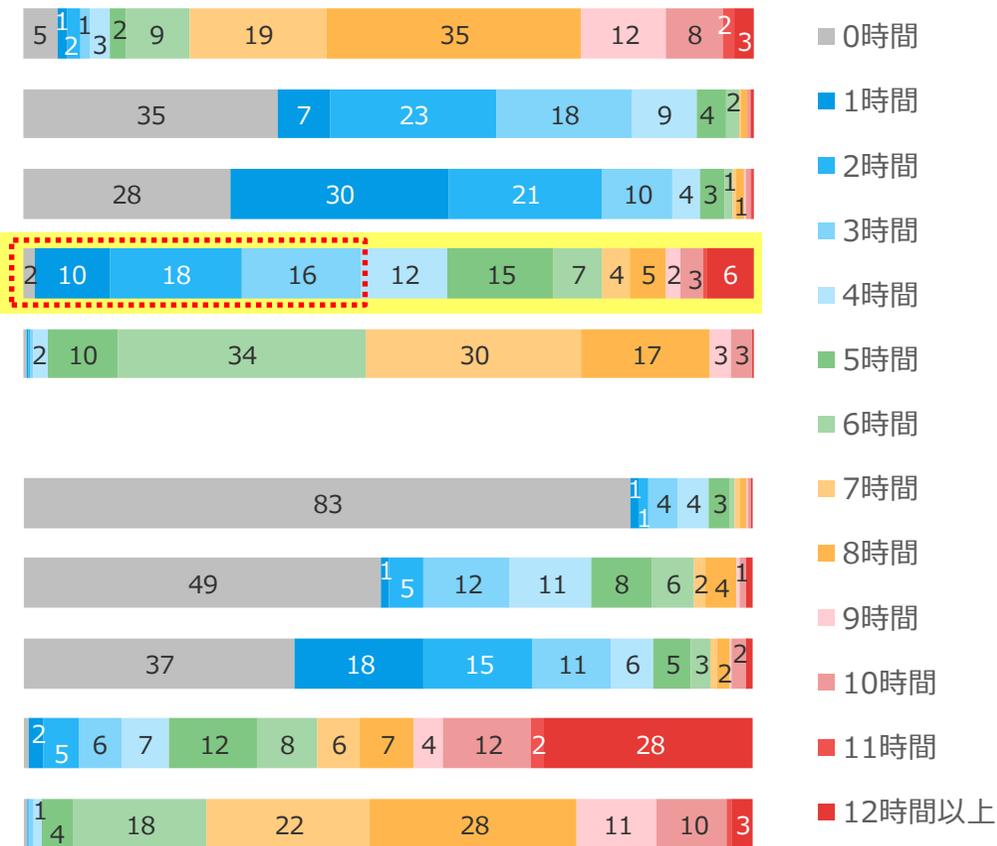
時間の使い方（平均時間：h）_Q4.Q5

※学校は学生ベース(n=767)



時間の使い方（構成比：%）

※数値回答を四捨五入して算出



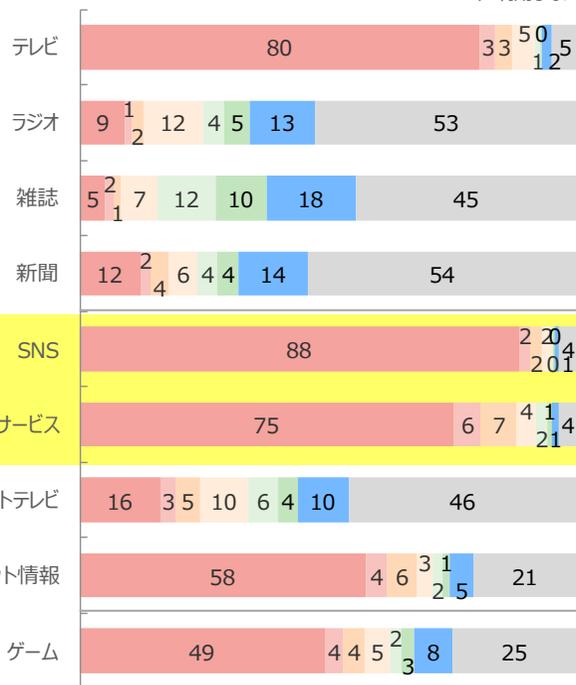
【思春期】接触情報①

約半数が、1日あたり1時間以上SNSや動画共有サービス等のネット情報に接触している。

■ SNSや動画共有サービスは、7割半以上が毎日利用し、1日あたりの利用時間も約半数で1時間を超える。テレビと同程度の接触状況。

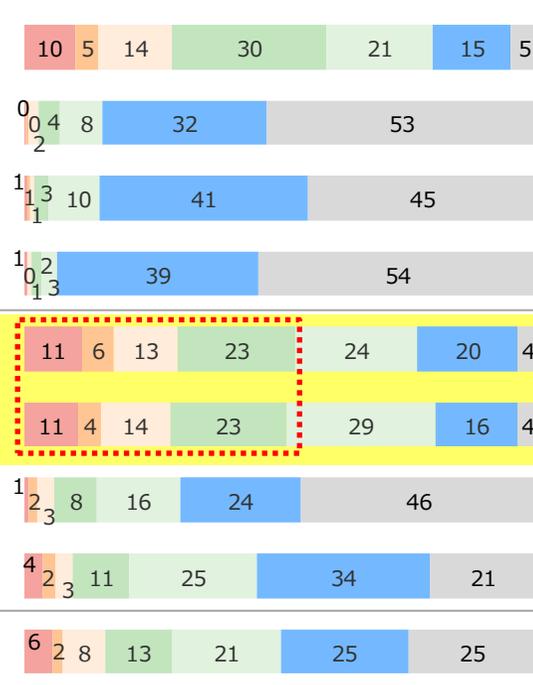
利用頻度 (%) _Q6

■ 1日1回以上 ■ 週に5~6回 ■ 週に3~4回 ■ 週に1~2回
■ 月に2~3回 ■ 月に1回 ■ それ未満 ■ まったく見ていない / 利用していない



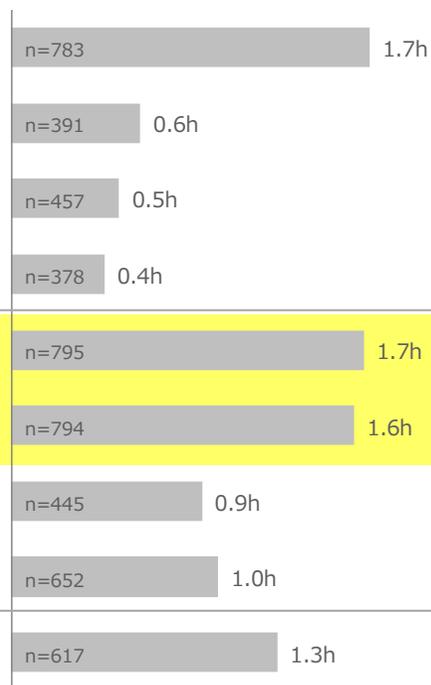
1日あたりの利用時間 (%) _Q7

■ 4時間以上 ■ ~4時間未満 ■ ~3時間未満 ■ ~2時間未満
■ ~1時間未満 ■ 30分未満 ■ 非利用



1日あたりの利用時間 (h)

利用者あたり平均
※各メディア利用者ベース



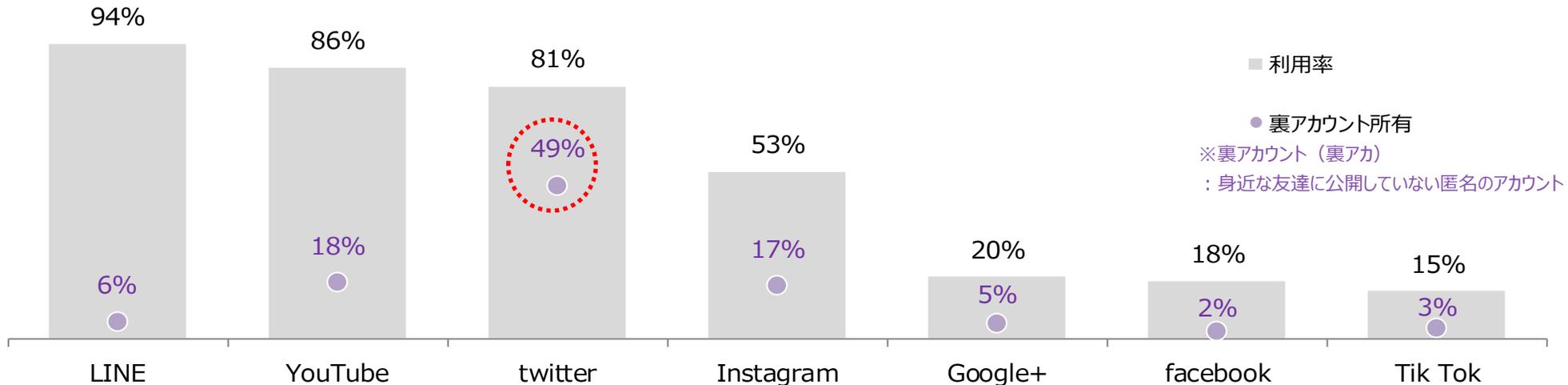
Source | 思春期の実態把握調査, 対象者 | 思春期824ss

【思春期】接触情報② SNSの利用状況

SNSが広く普及する一方で、裏アカによる身近な友人の拒否などが一部見られる。

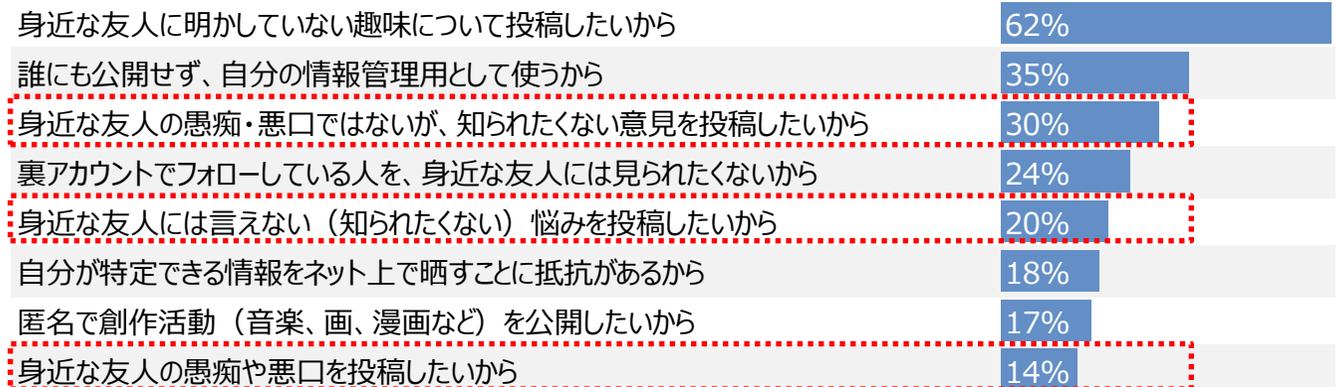
- 特にLINE、YouTube、twitterは利用率が8割を超えて高い。twitterは利用者の半数以上が裏アカを所有している。
- 裏アカ利用理由は、「身近な友人の愚痴・悪口ではないが、知られたくない意見を投稿したいから（30%）」、「身近な人には言えない（知られたくない）悩みを投稿したいから（20%）」、「身近な友人との愚痴や悪口を投稿したいから（14%）」など、身近な人に言えない／知られたくないことをSNS上で隠れて発信している。

SNS利用状況_Q8,Q10



裏アカウント利用理由_Q11

※裏アカウント所有者ベース (n=468)
複数回答

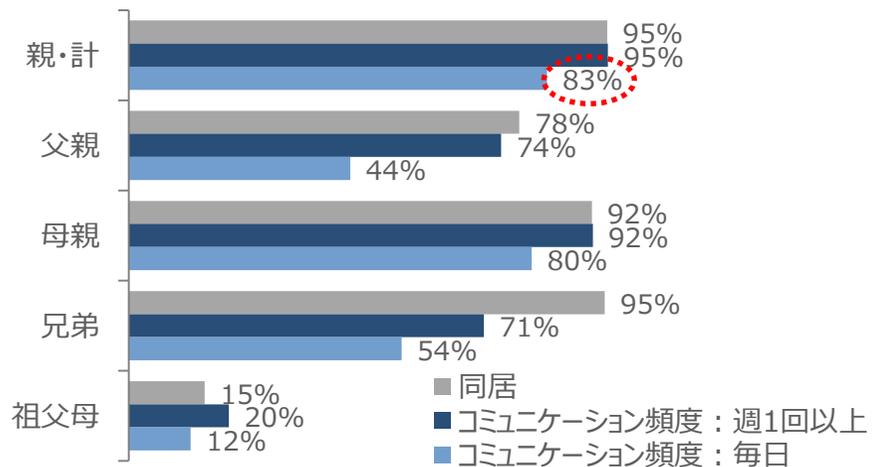


【思春期】家族との交流実態

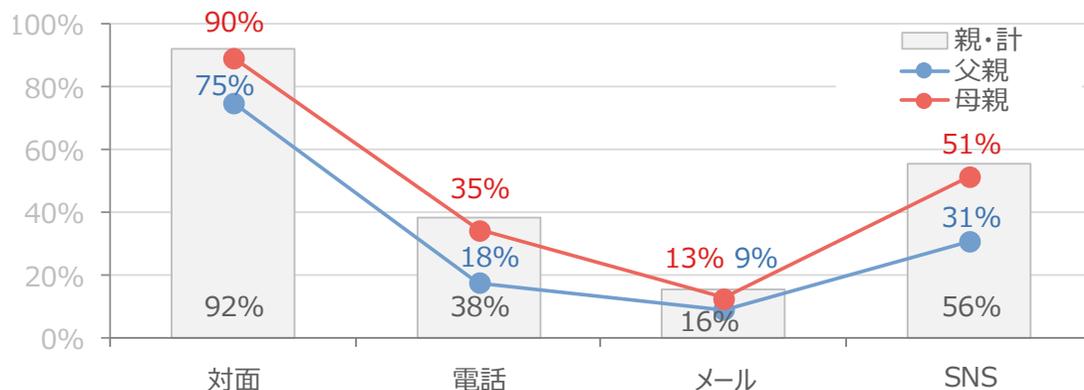
8割強が親と毎日コミュニケーションをとっているが、内容は趣味・習い事や世間話などのライトな話題が多く、悩み相談ができていないのは28%に留まる。

■ 親のうち、特に母親とのコミュニケーションは密だが、父親とのコミュニケーションはやや希薄。

家族との交流頻度 SQ2,Q13



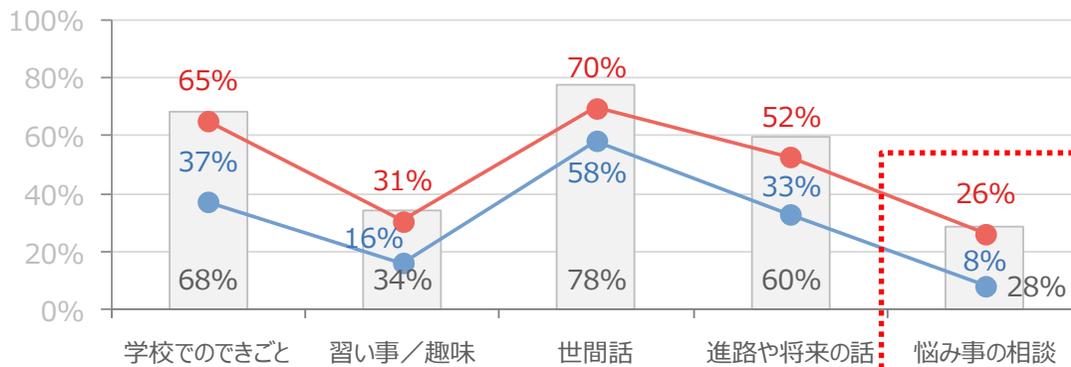
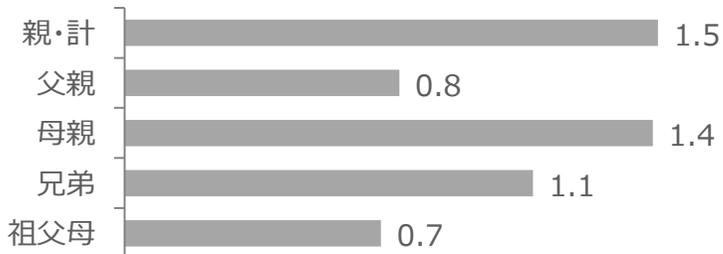
親とのコミュニケーション方法 / 内容 Q15,Q16



1日あたりの交流時間(h) Q14

※交流のある人ベース

「30分未満」：0.25 / 「1時間未満」：0.75 / 「2時間未満」：1.5 / 「3時間未満」：2.5 / 「4時間未満」：3.5 / 「4時間以上」：4.5 のウエイト値より算出



Source | 思春期の実態把握調査, 対象者 | 思春期824ss

【保護者】子供との交流実態（属性別）

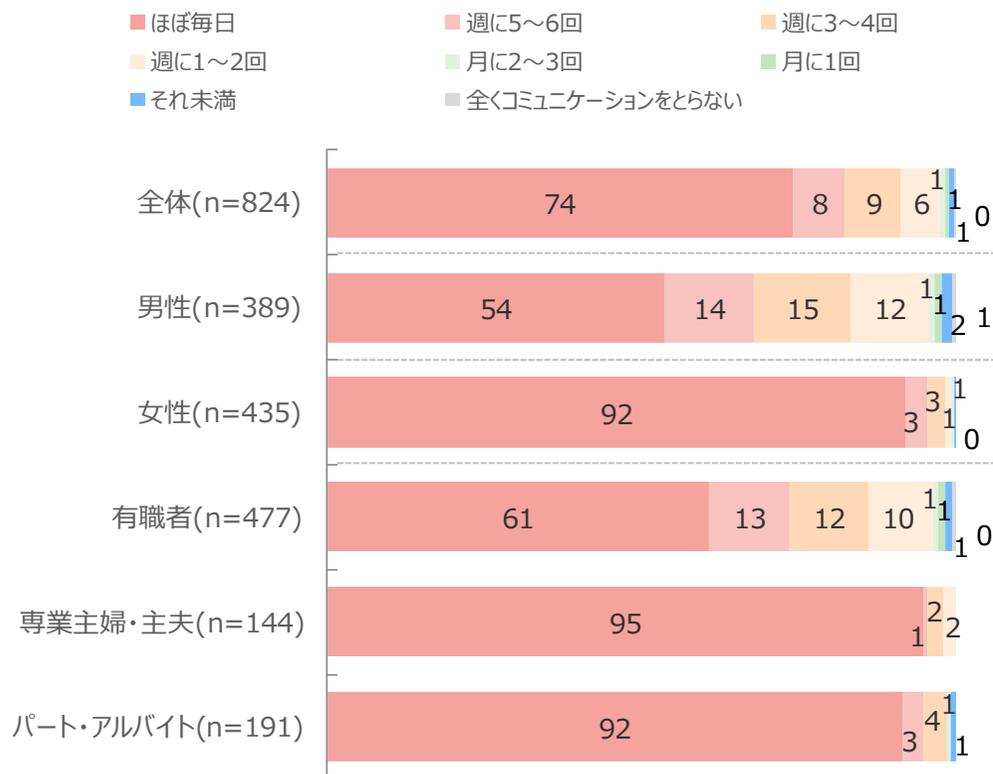
思春期

保護者

母親の方が子より高頻度でコミュニケーションを取っていると感じており、一方通行なコミュニケーションが存在する可能性がある。

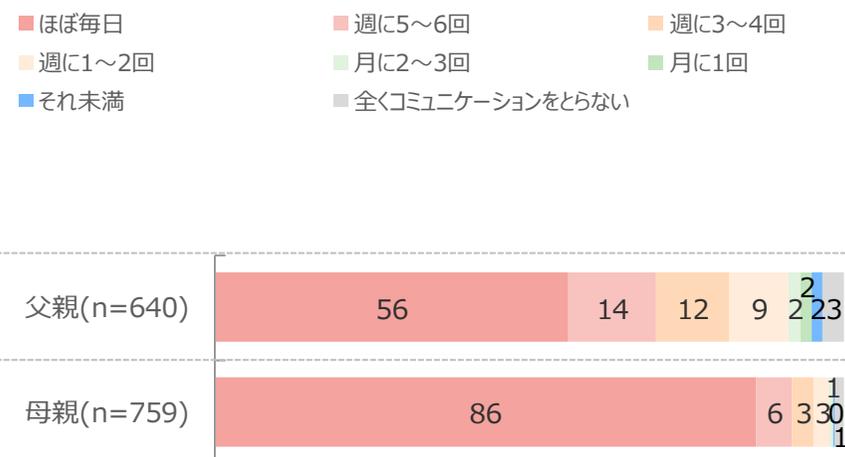
- 毎日コミュニケーションをとる割合は、保護者の女性92%だが、思春期への聴取では対母親は86%。
コミュニケーション量が多い母子間のコミュニケーションにおいて、親子で意識の差が見られる。
- 親子間のコミュニケーション量は親の職業に左右される。

子供との交流頻度（%）_Q41



子供から見た親との交流頻度（%）_Q13

※各親と同居者ベース



Source | 思春期の実態把握調査, 対象者 | 保護者824ss

【思春期】家族以外との交流実態

家族以外のリアルコミュニティは、同じ学校(だった)同級生と現在の学校の先生のみ。それ以外はネットに限られる。

- 交流のある割合が4割を超えるのは、「小学校・中学校の同級生、友人」「現在の学校の同級生、友人」「ネット上で知り合った友人」「現在の学校の先生」「ネット上で知り合った人」。

家族以外との交流実態_Q12

		交流あり・計	よく直接会って話す	自分の悩みの相談をする	相手の悩みの相談を受ける	SNSやメールでメッセージのやりとりをする	SNS上で近況を把握している	電話で話をする	その他	まったく交流はない／連絡をとりあっていない	この関係性の人はいない
(n=824)											
同世代	小学校・中学校の同級生、友人	76%	30%	17%	16%	53%	34%	17%	1%	19%	5%
	現在の学校の同級生、友人	85%	65%	27%	30%	62%	36%	27%	0%	5%	10%
	習い事・塾・予備校が一緒の友人	21%	8%	2%	2%	11%	7%	3%	0%	15%	65%
	アルバイトが一緒の友人	16%	7%	3%	2%	9%	4%	3%	0%	10%	74%
	ボランティアが一緒の友人	10%	4%	2%	1%	4%	3%	2%	0%	4%	86%
	ネット（SNSなど）上で知り合った友人	48%	5%	8%	8%	36%	27%	9%	0%	6%	45%
自分より上の世代	小学校・中学校の先生	27%	8%	5%	1%	12%	6%	2%	2%	73%	0%
	現在の学校の先生	41%	28%	12%	1%	7%	2%	3%	1%	52%	7%
	習い事・塾・予備校の先生	18%	11%	5%	1%	5%	2%	1%	0%	16%	67%
	アルバイト先の知り合い	15%	6%	2%	1%	7%	3%	2%	0%	13%	73%
	ボランティアの知り合い	7%	3%	2%	1%	3%	2%	1%	0%	6%	87%
	その他 地域の知り合い	16%	9%	2%	1%	3%	2%	2%	1%	21%	63%
	ネット（SNSなど）上で知り合った人	44%	4%	6%	5%	29%	22%	7%	0%	8%	49%

Source | 思春期の実態把握調査, 対象者 | 思春期824ss



2章 思春期の悩み実態

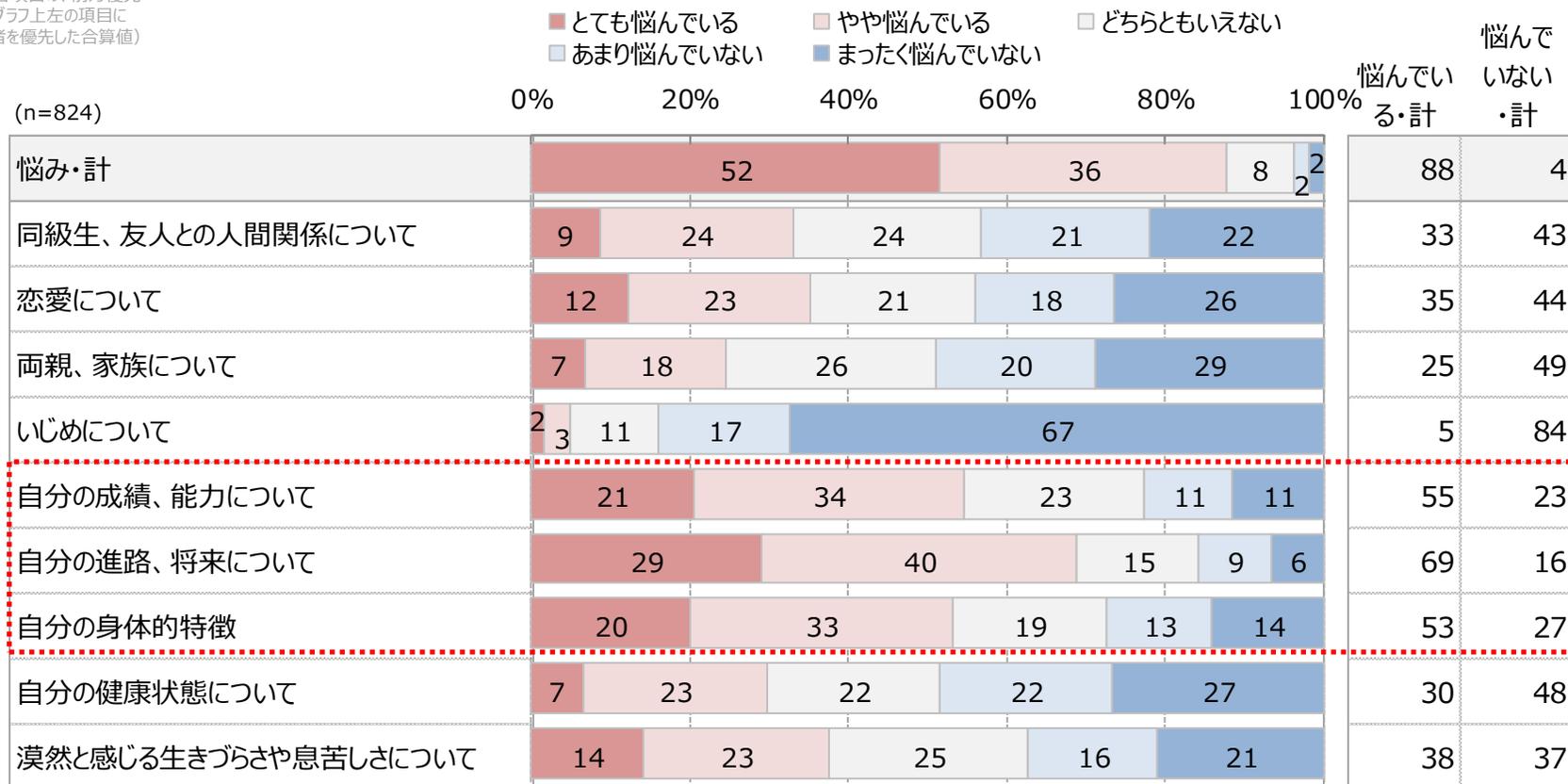
【思春期】悩み実態①

思春期の約9割が悩みを抱えており、特に自分の能力や将来、身体的特徴に関する悩みが高い。

■ 「漠然と感じる生きづらさや息苦しさ」も4割弱が感じている。

思春期の悩み_Q21

※「悩み・計」は、各項目の、前方優先集計した値（グラフ上左の項目にいずれか回答者を優先した合算値）



※悩んでいる・計(「とても悩んでいる」+「やや悩んでいる」)

※悩んでいない・計(「あまり悩んでいない」+「まったく悩んでいない」)

【思春期】悩み実態②自由記述

自分の能力や将来についての悩みは記述されたが、身体的特徴に関する悩みは記述は少なく、人間関係の記述が多数。

- 「身体的特徴」「恋愛について」や「漠然と感じる生きづらさや息苦しさ」などは、選択項目ではある程度選ばれたものの、具体的に言語化して書き表すことは難しい様子。また、文字にすることで直視しなければいけない点でも、記述回答では少なくなったことも考えられる。

1 同級生、友人との人間関係について

- コミュニケーションが苦手であまりうまく話せない。(男性/贅沢できない)
- 部活の仲間に相手にされない。(女性/贅沢できる)
- 友人関係。人見知りな性格なので、あまり仲の良い友人が出来ないこと(男性/贅沢できない)

2 恋愛について

- 恋人が欲しい(女性/贅沢できない)
- 女子との関係が深まらない(男性/贅沢できない)
- 恋人がLGBTだった件について。今はもう好きではないがやっぱりいつ見ても可愛いので心が痛む。(男性/贅沢できる)

3 両親、家族について

- お父さんが家族に興味になさすぎて腹がたつ(女性/贅沢できない)
- 親に嫌われないように親に意見を合わせないといけないのがしんどい。自分の意見を押し殺して笑顔で親に会うようにしてるけどしんどい(女性/贅沢できる)
- 母親との接し方に困っている。日常生活にあまり楽しさを感じない(男性/贅沢できる)

4 いじめについて

- 嫌がらせ(男性/贅沢できる)

5 自分の成績、能力について

- テストの成績が上がらない(男性/贅沢できる)
- 勉強がプレッシャー(女性/贅沢できる)
- 勉強も趣味もうまいかない(男性/贅沢できる)

6 自分の進路、将来について

- 大人になった時仕事ができるか不安・批判を気にしすぎてしまう(男性/贅沢できる)
- やりたい仕事沢山あり一つに絞ることができない(女性/贅沢できる)
- あまりないが、自分に向いている職業が分からないこと。(男性/贅沢できる)
- 自分の考えている将来の仕事が本当に自分がしたいことなのか。(女性/贅沢できる)

7 自分の身体的特徴(コンプレックスなど)について

- 考え過ぎる性格、顔、体型、夢中になれる趣味が無い(女性/贅沢できる)
- 容姿について(女性/贅沢できない)
- 肌トラブル(女性/贅沢できない)

8 自分の健康状態について

- 精神疾患持ちなこと・将来のこと(女性/贅沢できる)
- 早く寝たいのに寝られず、寝不足である・夏休みの間に進学のための勉強が身につくか不安(男性/贅沢できない)
- 体調を崩しやすい(男性/贅沢できる)

9 漠然と感じる生きづらさや息苦しさにについて

- なにもうまくいかず周りに迷惑をかけてばかり 将来何をしたらいいのかもわからない(女性/贅沢できない)
- 生きる意味がわからない(女性/贅沢できる)
- 存在価値がない(女性/贅沢できる)

10 その他

- 好きなことに触れている時に辛い気持ちになる。(女性/贅沢できない)
- 休みが少ない(女性/贅沢できる)
- 集中力がない。(女性/贅沢できる)
- お金がない(女性/贅沢できない)
- 学校に行きたいのに行けない(女性/贅沢できる)
- 何事も考えすぎてしまう(女性/贅沢できる)

【思春期】悩みの対処方法①

進路以外の悩みは、3～5割が対処できていない。

悩みの種類を問わず、対処方法は“相談”が多い。しかしながら、半数以上が“相談”していない悩みもある。

■ 悩みの種類を問わず、相談で対処する割合が最も高い。

しかしながら、同級生や家族との人間関係、身体的特徴、漠然と感じる生きづらさといった悩みは、相談しない割合が5～7割。

悩みの相談相手_Q22

※各悩みがある人ベース

※「悩み・計」は、各項目の、前方優先集計した値
(いずれかの悩みで相談していれば、相談していない
悩みがあっても相談している人として集計。対処も同様)

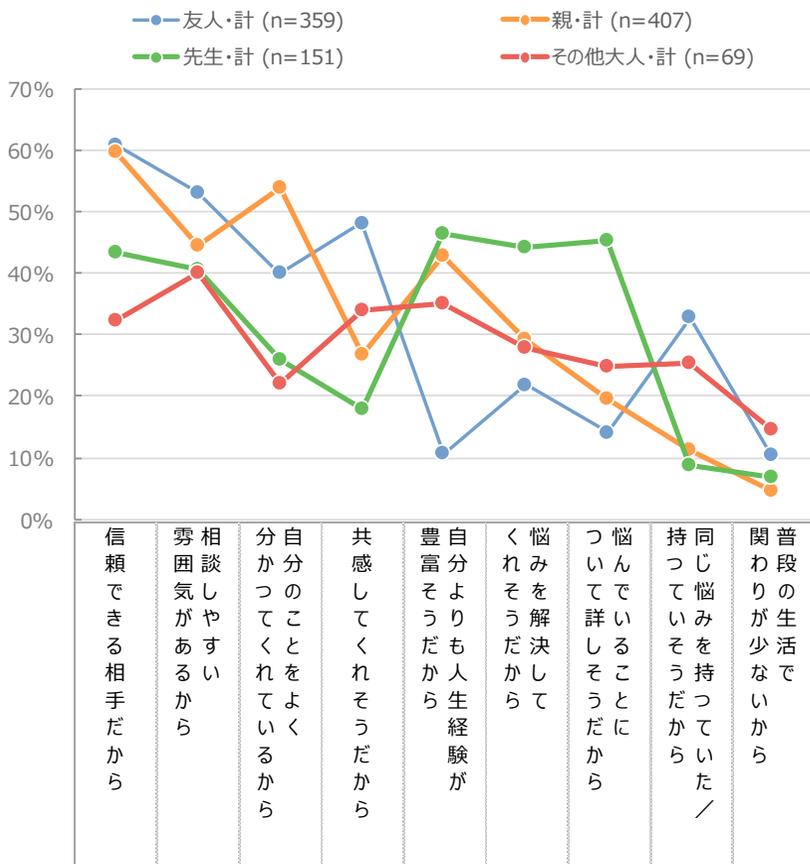
	n=	対処・計	相談・計	親に相談	友人に相談	先生に相談	その他大人に 相談	SNSに悩みを 投稿して相談 する	インターネット やSNSで情 報を集める	本、雑誌、新 聞などを読ん で情報を集め る	相談しない	特に何もしな い
同級生、友人との人間関係について	(273)	54%	48%	24%	28%	4%	6%	4%	9%	3%	52%	46%
恋愛について	(291)	65%	56%	9%	48%	1%	5%	4%	14%	4%	44%	35%
両親、家族について	(202)	52%	46%	17%	24%	4%	7%	6%	9%	5%	54%	48%
いじめについて	(41)	61%	54%	20%	22%	10%	10%	5%	7%	0%	46%	39%
自分の成績、能力について	(451)	64%	53%	34%	28%	15%	2%	2%	14%	6%	47%	36%
自分の進路、将来について	(568)	78%	70%	55%	33%	21%	4%	4%	23%	8%	30%	22%
自分の身体的特徴について	(438)	56%	32%	18%	16%	2%	3%	5%	29%	10%	68%	44%
自分の健康状態について	(246)	70%	57%	44%	17%	5%	4%	3%	24%	5%	43%	30%
漠然と感じる生きづらさや息苦しさについて	(310)	47%	30%	14%	16%	3%	4%	9%	17%	5%	70%	53%
悩み・計	(723)	84%	75%	56%	50%	21%	9%	10%	35%	15%	25%	16%

【思春期】悩みの対処方法②

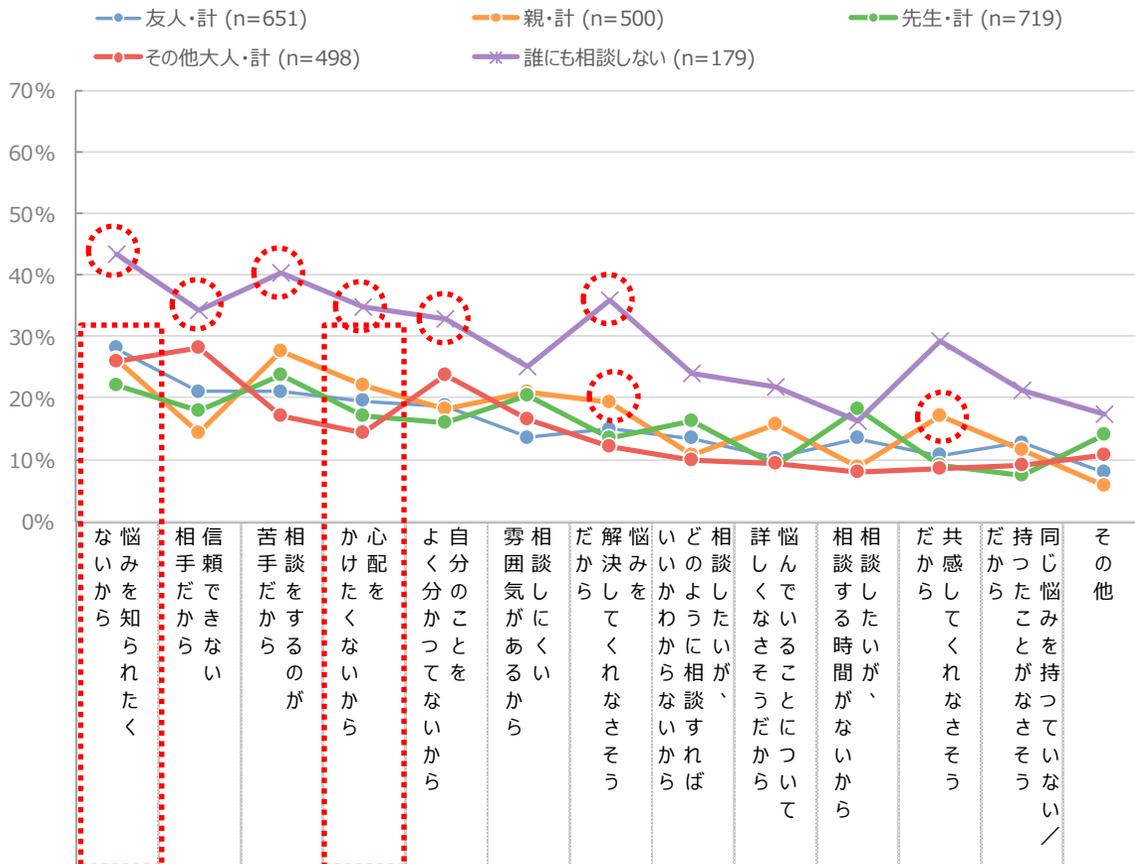
親・先生や友人に相談しない理由は「悩みを知られたくない」「心配をかけたくない」等。親に対しては「解決してくれなさそう」「共感してくれなさそう」も高く、力不足だと感じられている。

- 親・先生以外の大人へ相談する理由は、「相談しやすい」「共感してくれそう」「人生経験が豊富」が上位。
- 親・先生や友人へ相談できない思春期は、自分と近すぎない関係で、ある程度年齢が近く自分よりも経験が豊富なその他の大人へは相談しやすい可能性がある。
- 誰にも悩みを相談できない理由は、「悩みを知られたくない」「相談するのが苦手」といった相談へのハードルを感じているパターンと、相手に対し「信頼できない」「心配をかけたくない」「自分のことをよくわかっていない」「解決してくれなさそう」と不安を感じているパターンの2通り。安心できる相談の場と相手が必要な状態と推察される。

相談した理由_Q23 ※各相手に相談した人ベース



相談しなかった理由_Q24 ※各相手に相談していない人ベース



※ともに相談計(相談相手全体)のスコアで降順ソート

【保護者】子供からの相談への対処

悩みを相談される親は相談には乗っているものの、対処法がわからず解決までは至っていない。

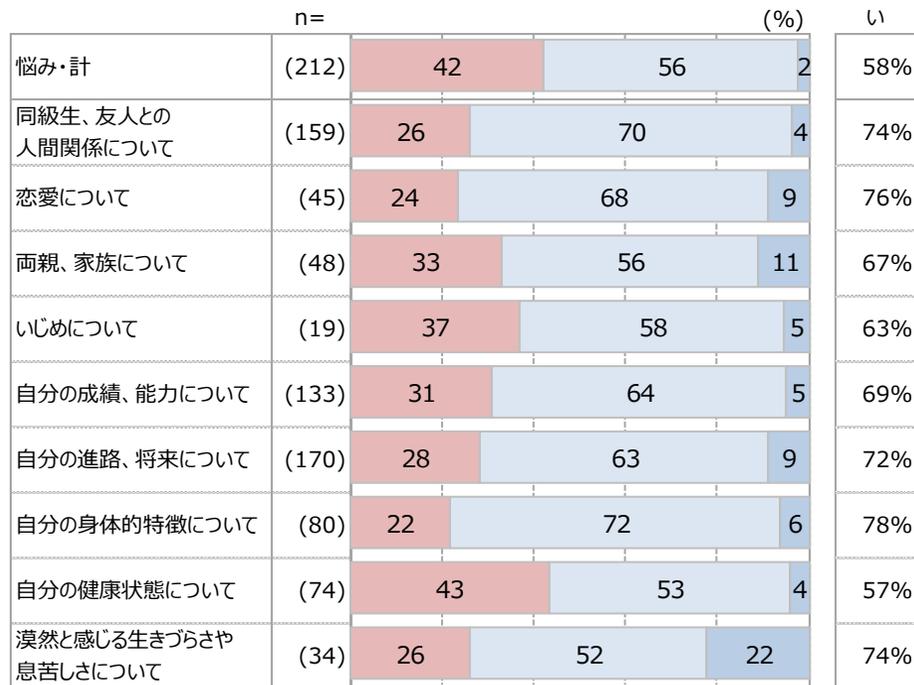
保護者目線でも、子供の悩みに共感でき、悩みに詳しく解決できるような人が必要だと思われる。

- 各悩み項目を見ると、「解決に役立っている」のは2~4割程度。6~8割程度は「解決できていない」と感じている。
悩み計を見ると、相談のうち1つでも解決に役立っているのは42%。56%は相談内容のうち解決に導けているものが1つもないと感じている。
- その理由としては「どう解決すればよいかわからない」「悩みに詳しくない」「他の人に相談した方が良いと思う」等、自分では力不足だと感じている様子。

相談への対処状況_Q46 ※各悩みを相談される人ベース

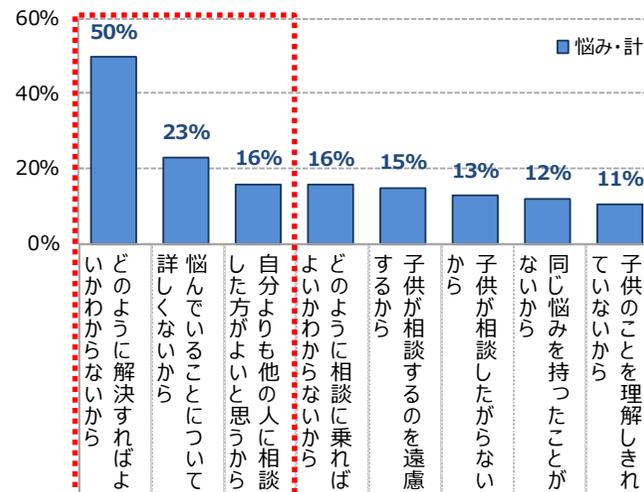
※「悩み・計」は、各項目の、前方優先集計した値（グラフ上左の項目にいずれか回答者を優先した合算値）

■ 十分に相談に乗り、解決に役立っている
■ 解決までは至らないが、十分に相談に乗っている
■ 十分に相談に乗れていない

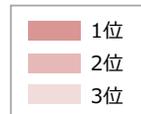


※解決できていない(「十分に相談に乗れていない」+「解決までは至らないが、十分に相談に乗っている」)

相談に答えきれていない理由_Q47 ※各悩みを相談されるが解決できていない人ベース



横方向に



悩み・計	n=	1位 (%)	2位 (%)	3位 (%)	4位 (%)	5位 (%)	6位 (%)	7位 (%)	8位 (%)	9位 (%)
悩み・計	(174)	50	23	16	16	15	13	12	11	
同級生、友人との人間関係について	(118)	32	13	10	6	14	10	4	7	
恋愛について	(34)	43	6	3	6	12	9	-	-	
両親、家族について	(32)	35	3	3	9	6	16	3	9	
いじめについて	(12)	61	7	-	18	14	10	-	-	
自分の成績、能力について	(91)	37	14	11	6	6	10	4	8	
自分の進路、将来について	(121)	36	12	8	13	8	4	6	5	
自分の身体的特徴について	(63)	43	11	3	9	4	7	13	4	
自分の健康状態について	(42)	34	16	10	9	7	8	7	-	
漠然と感じる生きづらさや息苦しさについて	(25)	36	13	7	12	3	8	-	3	

※「悩み・計」で10%以上の項目を抜粋して掲載

【教員】生徒からの相談への対処

相談を聞いてはいるが、時間的制約や生徒との価値観・経験の違いから解決は難しい。

教員目線でも、生徒と近い世代で同じような悩みを経験した人が必要だと思われる。

- 各悩み項目を見ると、「解決に役立っている」のは1〜3割程度。1〜2割は「十分に相談に乗れていない」とも感じており、計8割前後は「解決できていない」と感じている。悩み計を見ると、相談のうち1つでも解決に役立っているのは40%。54%は相談内容のうち解決に導いているものが1つもないと感じている。
- 解決できていない理由は「時間がない」「生徒と価値観が違う」「自分の経験則では答えられない」「自分が感じたことのない悩みを生徒が持っている」から。

相談への対処状況_Q56 ※各悩みの相談にのる人ベース

※「悩み・計」は、各項目の、前方優先集計した値（グラフ上左の項目にいずれか回答者を優先した合算値）

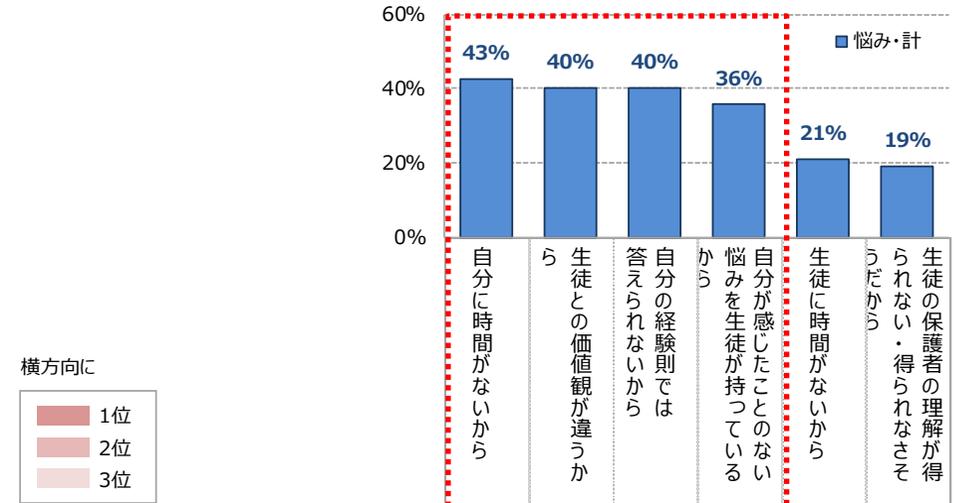
■ 十分に相談に乗り、解決に役立っている
 ■ 解決までは至らないが、十分に相談に乗っている
 ■ 十分に相談に乗れていない

相談・計	n=	十分に相談に乗り、解決に役立っている (%)	解決までは至らないが、十分に相談に乗っている (%)	十分に相談に乗れていない (%)	解決できていない (%)
相談・計	(659)	40	54	7	60%
同級生、友人との人間関係について	(411)	20	62	18	80%
恋愛について	(132)	18	66	16	82%
両親、家族について	(228)	13	63	23	87%
いじめについて	(243)	28	53	18	72%
自分の成績、能力について	(550)	23	65	12	77%
自分の進路、将来について	(588)	29	59	12	71%
自分の身体的特徴について	(123)	16	63	21	84%
自分の健康状態について	(240)	19	63	18	81%
漠然と感じる生きづらさや息苦しさについて	(203)	13	63	24	87%

※解決できていない(「十分に相談に乗れていない」+「解決までは至らないが、十分に相談に乗っている」)

Source | 思春期の実態把握調査, 対象者 | 教員689ss

相談に応えきれない理由_Q57 ※各悩みを相談されるが解決できていない人ベース



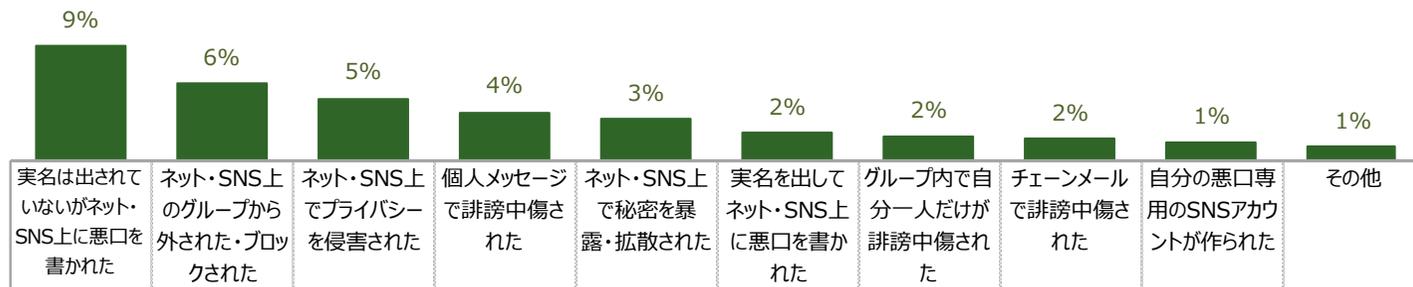
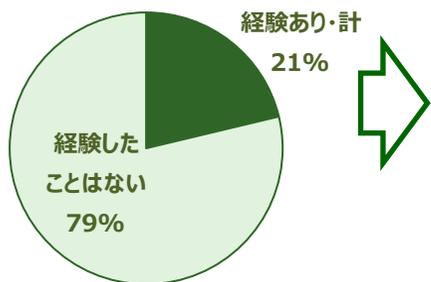
悩み・計	n=	1位 (%)	2位 (%)	3位 (%)	その他 (%)
悩み・計	(605)	43	40	40	36
同級生、友人との人間関係について	(329)	32	37	26	26
恋愛について	(108)	27	41	27	14
両親、家族について	(197)	31	25	27	24
いじめについて	(174)	25	25	28	31
自分の成績、能力について	(422)	41	17	17	14
自分の進路、将来について	(418)	38	22	24	17
自分の身体的特徴について	(104)	26	30	25	25
自分の健康状態について	(194)	28	16	35	22
漠然と感じる生きづらさや息苦しさについて	(177)	30	39	30	29

※「悩み・計」で10%以上の項目を抜粋して掲載

SNSいじめ経験者は全体の2割を超える。しかし、いじめに遭っても4割は何も対処できていない。

- SNSいじめ経験率は特に女性で高く、SNS利用時間が長くなるほど高まる。いじめの内容としては、特に「ネット上での悪口」が高い。
- 現代の思春期世代はSNSでの繋がりが当たり前のものとなり、ネット上でのライトな交流関係が広まった一方で、こういった新しい形でのいじめにあう危険性も増している。

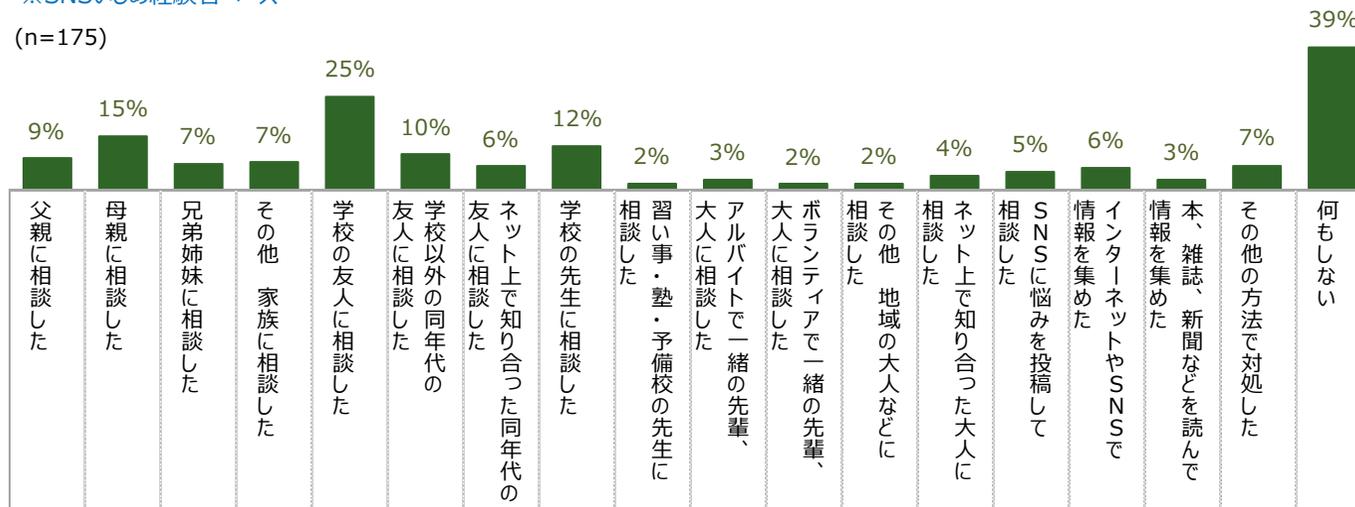
SNSいじめ被害経験_Q25



対処方法_Q26

※SNSいじめ経験者ベース

(n=175)



[比率の差]		n=	経験あり・計	経験はしない
全体 +10ポイント				
全体 +5ポイント				
全体 -5ポイント				
性別	男性 (417)	19%	81%	
	女性 (407)	24%	76%	
利用時間のSNS	30分未満 (191)	13%	87%	
	30分~1時間未満 (196)	19%	81%	
	1~2時間未満 (188)	24%	76%	
	2~3時間未満 (104)	21%	79%	
	3時間以上 (144)	32%	68%	

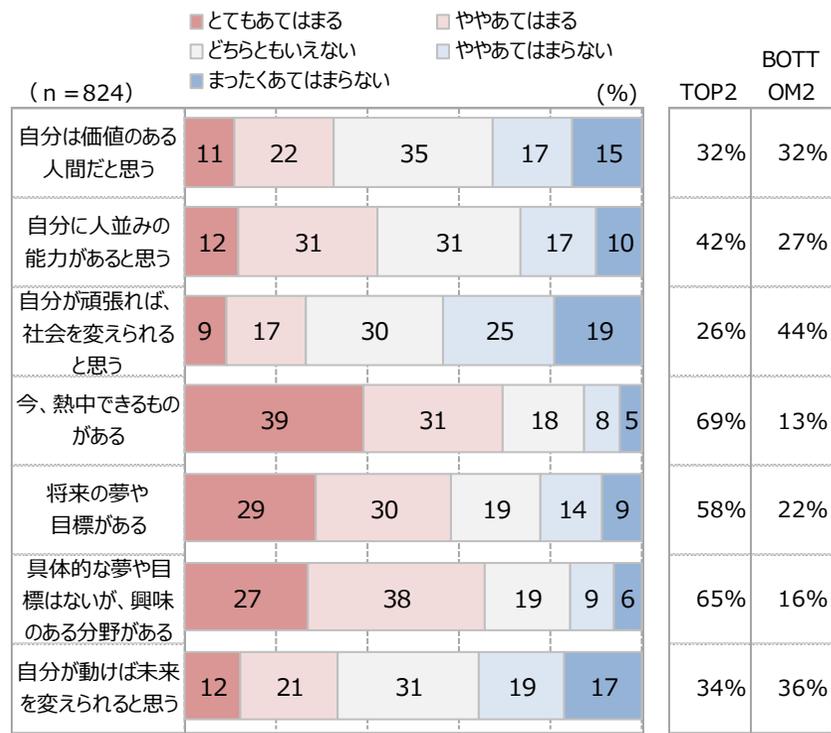
3章 思春期の自己肯定感／将来意識

【思春期】自己肯定感／将来意識

将来の目標があるのは6割程度。

自己肯定感や将来意識は学外活動ありや、学外の年上の人との交流が深いほど高くなる。

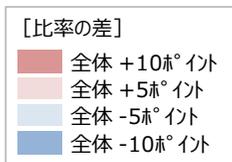
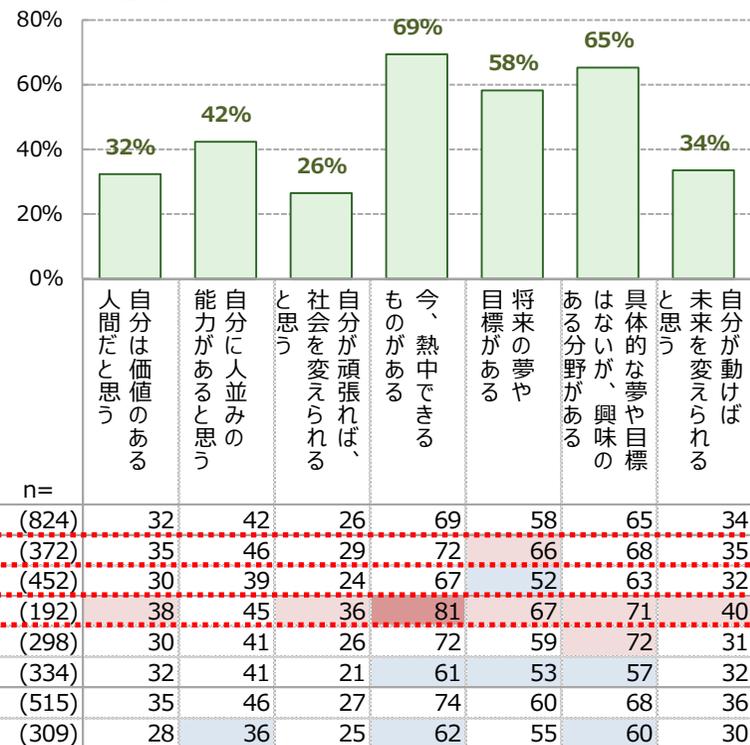
自己肯定感／将来への意識_Q17



※TOP2(「とてもあてはまる」+「ややあてはまる」)

※BOTTOM2(「ややあてはまらない」+「まったくあてはまらない」)

※スコアはTOP2



		全体	学外の活動あり	学外の活動なし	学外の年上の人との交流	経済状況別
		(824)	(372)	(452)	(192)	(515)
学外の活動有無別	学外の活動あり	32	35	30	38	35
	学外の活動なし	42	46	39	45	46
学外の年上の人との交流	よく会って話す	26	29	24	36	27
	その他交流あり	69	72	67	81	74
	交流なし・いない	58	66	52	67	60
経済状況別	賛成できる・計	65	68	63	71	68
	賛成できない・計	34	35	32	40	32

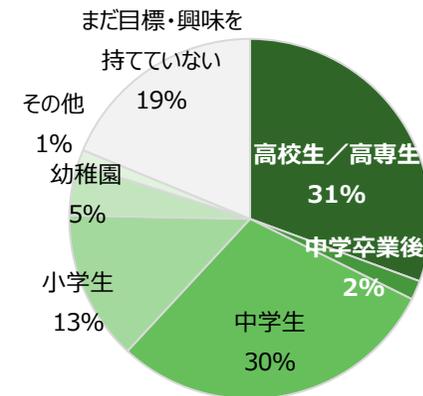
【思春期】将来目標/興味分野をもつきっかけ

将来目標や興味分野をもつ時期は中学生～高校生の思春期で、この時期の交流／情報接触が重要だと考えられる。

きっかけは、多岐に渡っており分散傾向が見られるが、その中で高いものはインターネットや趣味といった自発的な行動。

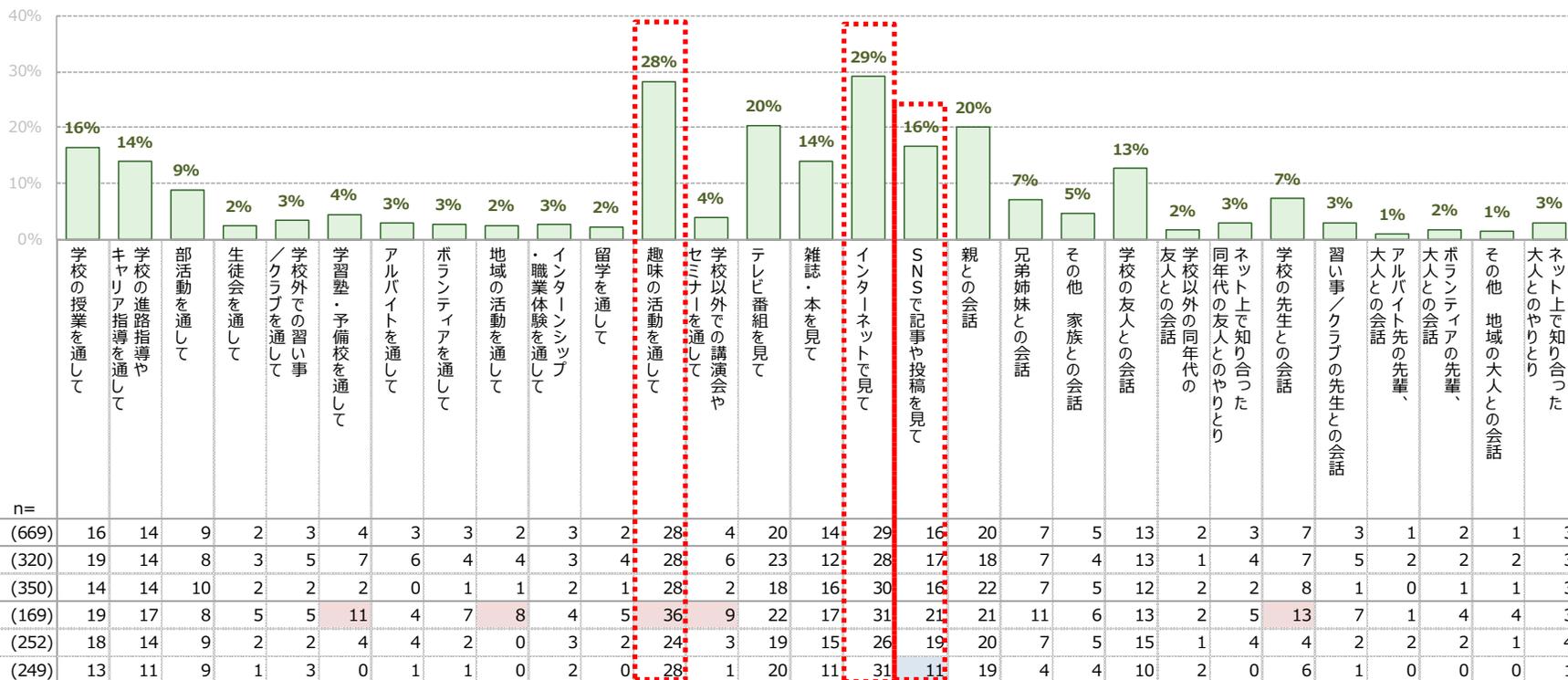
■ ネットやSNSといった昔はなかった媒体もきっかけの上位に挙がっている。

タイミング_Q18



きっかけ_Q19

※将来目標や興味分野のある人ベース



n=30以上の場合
[比率の差]
全体 +10% イト
全体 +5% イト
全体 -5% イト
全体 -10% イト

		n=	16	14	9	2	3	4	3	3	2	3	28	4	20	14	29	16	20	7	5	13	2	3	7	3	1	2	1	3
全体	(669)																													
学外の活動有無別	学外の活動あり	(320)	19	14	8	3	5	7	6	4	4	3	4	28	6	23	12	28	17	18	7	4	13	1	4	7	5	2	2	3
	学外の活動なし	(350)	14	14	10	2	2	2	0	1	1	2	1	28	2	18	16	30	16	22	7	5	12	2	2	8	1	0	1	3
学外の年上の人との交流	よく会って話す	(169)	19	17	8	5	5	11	4	7	8	4	5	36	9	22	17	31	21	21	11	6	13	2	5	13	7	1	4	3
	その他交流あり	(252)	18	14	9	2	2	4	4	2	0	3	2	24	3	19	15	26	19	20	7	5	15	1	4	4	2	2	1	4
	交流なし・いない	(249)	13	11	9	1	3	0	1	1	0	2	0	28	1	20	11	31	11	19	4	4	10	2	0	6	1	0	0	1

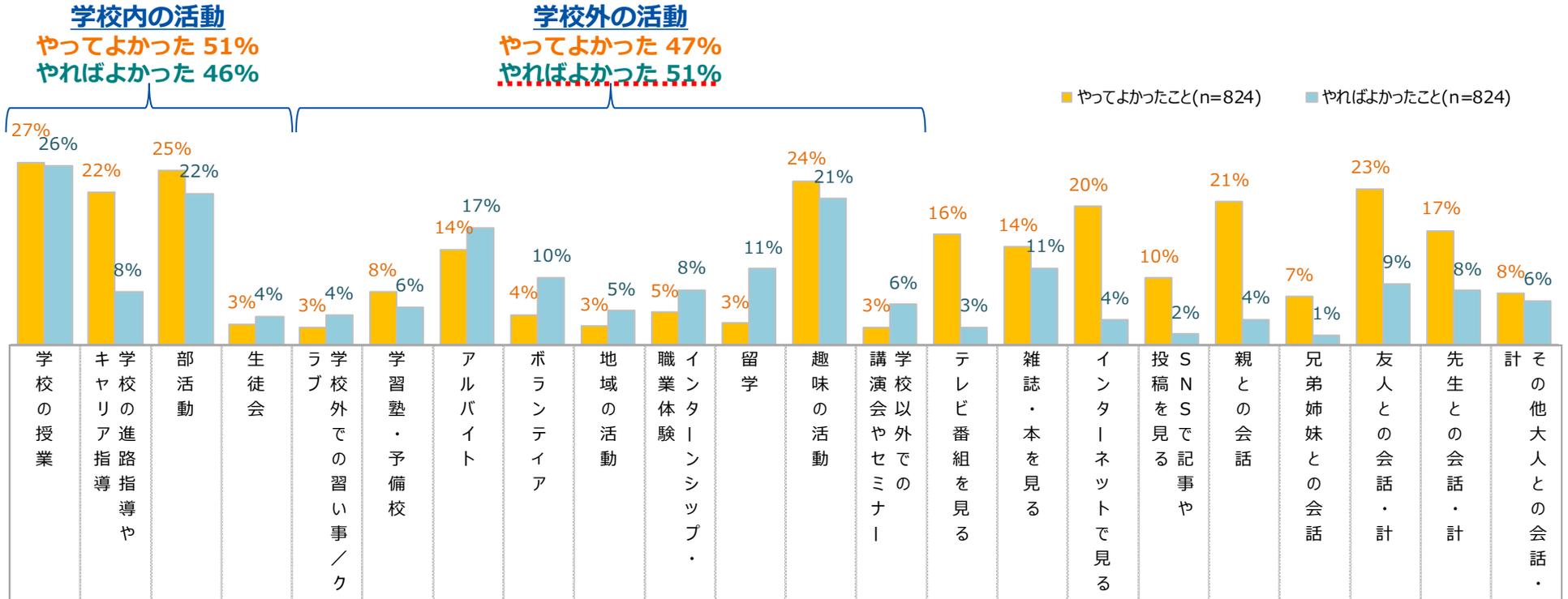
Source | 思春期の実態把握調査, 対象者 | 思春期824ss

【元思春期】将来のため、やって良かった/やれば良かったこと

学校外の活動は、学校内の活動よりも「(もっと) やればよかった」と感じられている。

- やってよかったことには、「学校の授業」「学校の進路指導」「部活動」といった学校内の活動や、「趣味の活動」、また「ネットで見える」「親との会話」「友人との会話」といった情報収集関連が挙げた。
- やればよかったことは、やってよかったことでも挙げた学校内の活動や趣味に加え、「アルバイト」「ボランティア」「インターンシップ」「留学」といった学校外の活動も挙がる。学校外の活動の多くは「やってよかった」より「やればよかった」が高いことが特徴的で、“やらなかったことへの後悔”が強いと推察される。

やってよかった_Q29 / (もっと)やればよかったこと_Q30





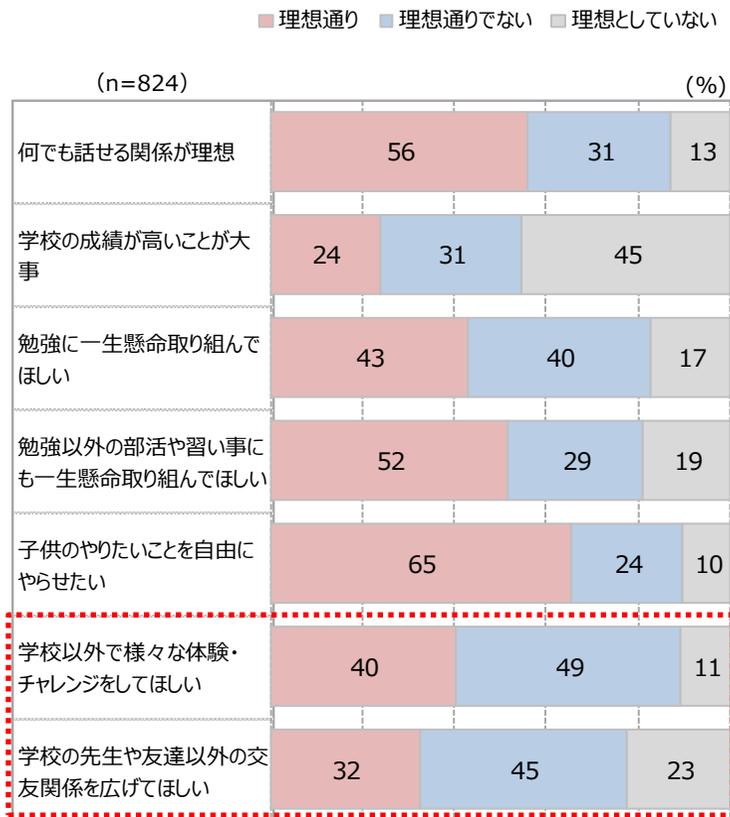
Appendix 思春期周りの大人の理想と現実のギャップ

【保護者】子育ての理想と現実のギャップ

学校外の活動・人間関係は理想通りにっていない。理由は、子供の忙しさに加え、金銭的な難しさや機会のなさ。カタリバの活動は学校以外での体験や、交友関係を広げてほしいという保護者のニーズに合致している。

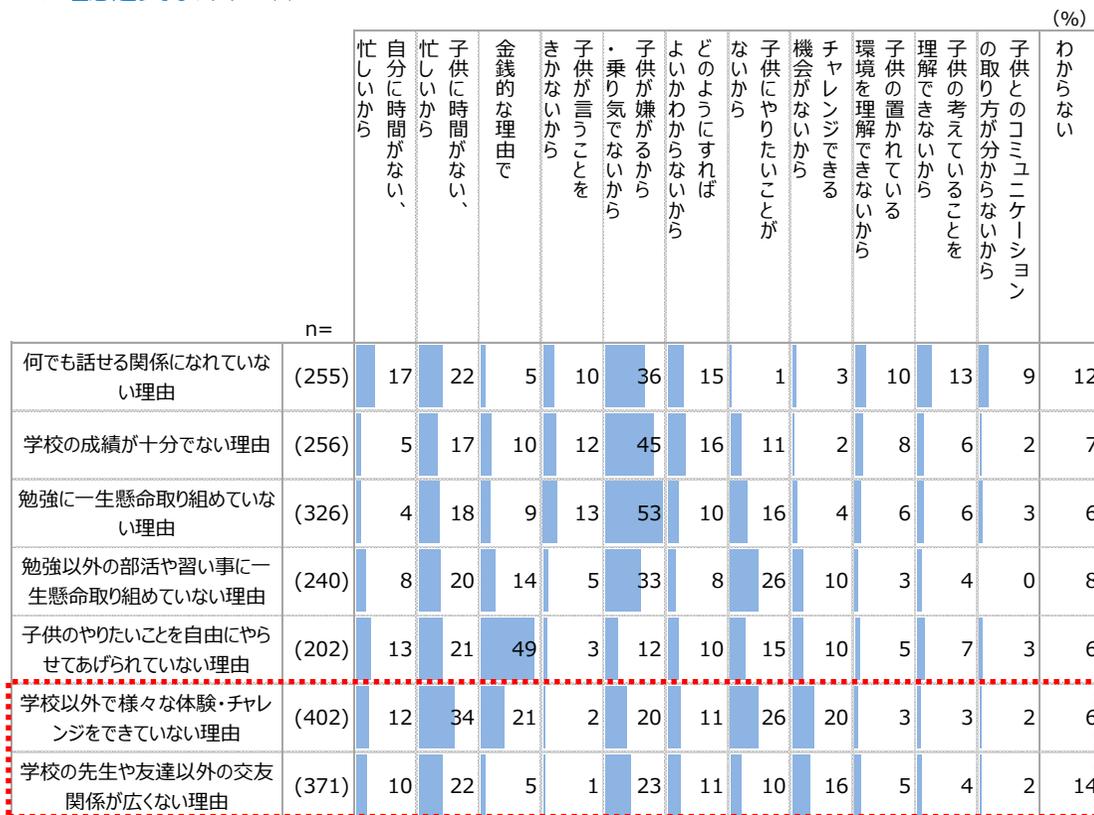
- <学校以外での体験> <学校以外の交友関係> は、理想としていながらも「理想通りでない」割合が「理想通り」である割合を上回る。
- 理想通りにできていない理由としては、「子供に時間がない」「金銭的な理由」「子供が乗り気でない」「子供にやりたいことがない」「機会がない」など、時間や金銭面といった外的要因に加え、子供のやる気に起因するものが挙がった。

理想と現実のギャップ_Q48.Q49



理想とギャップがある理由_Q50

※理想通りでない人ベース



【教員】生徒への対応の理想と現実のギャップ

**学校外の活動の機会作りは、やりたいができておらず、やり方がわからないことや予算獲得がハードル。
カタリバの活動は学校以外での活動の機会づくりという教員のニーズにも合致している。**

- <学外の活動の機会づくり> は、「もっと行いたい」が22%と「現在行っている」(16%)を上回る。唯一の「もっと行いたい」が「現在行っている」を上回る項目。十分に行えていない理由としては、「やり方がわからない」「予算がおりなさそう」が高い点が特徴的。
- また、<相談に乗る> ことも、過半数が不十分だと考えている。その理由は「生徒に求められているか自信がない」「保護者からの理解が心配」等、教員という立場故の踏み込みにくさがあるよう。

生徒への対応の理想と現実_Q53.Q54.Q55

	現在行っている	今は出来ないがもっと行いたい	n=	出来ない理由												
				時間がない	先輩教員や上司の許可が出ない	他の教員・スタッフに疎まれそう	予算がおりない・おりなさそう	やり方がわからない	生徒との関係性がよくない	生徒に求められている対応なのか自信がない	生徒の保護者の理解が得られない・得られなさそう	差別だと思われるくない	その他	特にない・わからない		
(n=689)																
相談に乗る・計	96%	52%	(356)	55%	8%	11%	7%	22%	7%	42%	21%	14%	5%	14%		
同級生、友人との人間関係について	60%	16%	(110)	46%	4%	5%	1%	15%	8%	38%	10%	13%	4%	13%		
恋愛について	19%	8%	(55)	33%	8%	11%	6%	10%	8%	37%	8%	9%	6%	11%		
両親、家族について	33%	13%	(88)	45%	9%	8%	4%	16%	6%	32%	35%	3%	3%	9%		
いじめについて	35%	13%	(91)	41%	4%	9%	0%	23%	8%	44%	10%	4%	4%	19%		
成績、能力について	80%	22%	(154)	64%	6%	10%	7%	13%	4%	23%	8%	4%	4%	9%		
進路、将来について	85%	25%	(170)	53%	4%	6%	2%	15%	4%	27%	13%	2%	5%	14%		
身体的特徴（コンプレックスなど）について	18%	9%	(62)	39%	7%	5%	7%	22%	4%	38%	20%	23%	6%	4%		
健康状態について	35%	9%	(63)	46%	6%	6%	1%	13%	3%	33%	14%	7%	5%	9%		
漠然と感じる生きづらさや息苦しさについて	30%	19%	(130)	45%	2%	6%	3%	29%	7%	36%	11%	5%	4%	8%		
その他の相談にのる	1%	0%	(2)	60%	0%	0%	0%	0%	0%	40%	0%	0%	0%	0%		
決まった授業以外で勉強をサポートする	42%	23%	(156)	73%	4%	14%	9%	9%	1%	18%	2%	7%	3%	6%		
地域に出ていくなど、学校外の活動機会をつくる・サポートする	16%	22%	(153)	60%	12%	13%	24%	25%	2%	18%	8%	4%	3%	9%		

Source | 思春期の実態把握調査, 対象者 | 教員689ss



株 式 会 社 マ ク ロ ミ ル

本調査に関するお問い合わせは、掲載元団体にお問い合わせください。
(株式会社マクロミルGoodmill事務局、又は認定NPO法人カタリバ)